

平成28年9月 全国百貨店売上高概況

平成28年10月20日

I. 概況

1. 売上高総額	4, 233億円余
2. 前年同月比	-5.0% (店舗数調整後/7か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	81社 236店 (平成28年8月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,959,059㎡ (前年同月比:-1.3%)
5. 総従業員数	75,329人 (前年同月比:-2.4%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	2-4月 -2.2%、3-5月 -3.9%、4-6月 -4.1%、 5-7月 -2.8%、6-8月 -2.9%、7-9月 -3.4%

[参考] 平成27年9月の売上高増減率は1.8% (店舗数調整後)

【特徴】

9月の売上高は前年同月比5.0%減。7か月連続のマイナスに終わった。

経済不安などによる先行きの不透明感から、消費者の節約志向が高まっていることに加え、天候不順や休日1日減などによる入店客数への影響も重なり、厳しい商況となった。

内訳として国内市場(シェア97.1%)が4.8%減。インバウンド(シェア2.9%)は購買単価の下落から売上は10.1%減と6か月連続で前年を下回った一方、購買客数は15.9%増を記録し44か月連続で拡大傾向にある。

地区別ではプロ野球の優勝セールが活況だった札幌や広島など3地区を除く15地区が前年を割り込み、10都市計が5.5%減、10都市以外計が4.0%減となるなど、地域を問わず国内全般に不振は広がる。また、規模別でも全ての店舗規模が前年に届かなかった。

商品別では、気温が高めに推移したことから、紳士服(-10.7%)、婦人服(-8.9%)、子供服(-8.9%)に揃って動きが見られず、衣料品は8.9%減と苦戦が続いている。なお、化粧品が6.2%増で国内外問わず好調を維持しており、18か月連続で前年を確保している。

今後については、付加価値の高い商品提案で厳しい中間層の消費を喚起しつつ、各社の特徴を踏まえた構造改革への積極的な取り組みが必要とされている。

【要因】

(1) 天候： 気象庁発表「9月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇前線が本州付近に停滞しやすかった影響や台風がたびたび接近・上陸したことにより、東・西日本で日照時間はかなり少なく、台風16号の影響を受けた九州や四国では土砂災害や浸水害などが発生した。また、寒気の南下が弱く南から暖かい空気が入りやすかったため、全国的に気温は高かった。

(2) 営業日数増減 29.9日 (前年同月比 +0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日 (" -1日/休日1日減)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数136店舗)

①増加した：29店、②変化なし：26店、③減少した：81店

(5) 9月歳時記(敬老の日、彼岸)の売上(同上/有効回答数95店舗)

①増加した：5店、②変化なし：56店、③減少した：34店

全国百貨店 売上高速報 2016年09月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後（ ）が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
全 国	423,360,476	100.0	-5.0 (-5.2)
10都市	287,370,701	67.9	-5.5
札幌	11,573,925	2.7	0.9
仙台	5,707,330	1.3	-13.0
東京	113,343,266	26.8	-3.4
横浜	24,644,599	5.8	-5.7
名古屋	26,658,937	6.3	-10.9
京都	16,937,823	4.0	-7.1
大阪	53,654,107	12.7	-7.3
神戸	10,885,128	2.6	-5.6
広島	9,902,141	2.3	4.7
福岡	14,063,445	3.3	-9.1
10都市以外の地区	135,989,775	32.1	-4.0 (-4.5)
北海道	3,380,757	0.8	43.6
東北	6,629,591	1.6	-4.5 (-5.2)
関東	62,834,868	14.8	-2.9 (-4.0)
中部	9,957,953	2.4	-6.0
近畿	17,575,537	4.2	-7.4
中国	9,536,761	2.3	-5.7
四国	6,493,449	1.5	-10.4
九州	19,580,859	4.6	-5.2

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	423,360,476	100.0	-5.0 (-5.2)
紳士服・洋品	24,590,355	5.8	-10.7 (-10.8)
婦人服・洋品	89,848,508	21.2	-8.9 (-9.1)
子供服・洋品	9,140,528	2.2	-8.9 (-9.1)
その他衣料品	10,140,187	2.4	-3.6 (-4.0)
衣 料 品	133,719,578	31.6	-8.9 (-9.0)
身のまわり品	57,983,520	13.7	-5.6 (-5.7)
化粧品	34,809,082	8.2	6.2 (6.1)
美術・宝飾・貴金属	25,467,772	6.0	-7.7 (-7.7)
その他雑貨	16,611,254	3.9	-4.8 (-5.2)
雑 貨	76,888,108	18.2	-1.2 (-1.3)
家 具	4,837,333	1.1	-18.8 (-18.9)
家 電	1,177,436	0.3	25.4 (25.4)
その他家庭用品	13,890,387	3.3	-3.2 (-3.4)
家 庭 用 品	19,905,156	4.7	-6.3 (-6.5)
生 鮮 食 品	22,667,569	5.4	-4.0 (-4.2)
菓 子	27,470,837	6.5	-4.4 (-4.5)
惣 菜	26,126,166	6.2	-2.5 (-2.6)
その他食料品	32,501,827	7.7	0.7 (0.4)
食 料 品	108,766,399	25.7	-2.4 (-2.6)
食 堂 喫 茶	12,626,954	3.0	-5.7 (-6.1)
サ ー ビ ス	4,830,351	1.1	0.9 (0.5)
そ の 他	8,640,410	2.0	-1.9 (-1.9)
商 品 券	8,572,523	2.0	-7.4 (-7.5)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

1. 10都市売上動向	-5.5% (7か月連続マイナス)
2. 10都市以外の地区売上動向	-4.0% (店舗数調整後/11か月連続マイナス)

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-5.5	-3.7	7か月連続マイナス
札幌	0.9	0.0	2か月ぶりプラス
仙台	-13.0	-0.2	7か月連続マイナス
東京	-3.4	-0.9	2か月連続マイナス
横浜	-5.7	-0.3	9か月連続マイナス
名古屋	-10.9	-0.7	9か月連続マイナス
京都	-7.1	-0.3	6か月連続マイナス
大阪	-7.3	-1.0	9か月連続マイナス
神戸	-5.6	-0.1	2か月連続マイナス
広島	4.7	0.1	11か月ぶりプラス
福岡	-9.1	-0.3	2か月連続マイナス
10都市以外の地区	-4.0	-1.3	11か月連続マイナス
北海道	43.6	0.2	3か月連続プラス*
東北	-4.5	-0.1	11か月連続マイナス*
関東	-2.9	-0.4	16か月連続マイナス
中部	-6.0	-0.1	7か月連続マイナス
近畿	-7.4	-0.3	2か月連続マイナス
中国	-5.7	-0.1	2か月連続マイナス*
四国	-10.4	-0.2	7か月連続マイナス
九州	-5.2	-0.2	2か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、2か月連続で全品目がマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が18か月連続、家電が3か月連続のプラス、その他食料品が7か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-5.0	-	7か月連続マイナス
紳士服・洋品	-10.7	-0.7	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-8.9	-2.0	11か月連続マイナス
子供服・洋品	-8.9	-0.2	5か月連続マイナス
その他衣料品	-3.6	-0.1	11か月連続マイナス
衣料品	-8.9	-2.9	11か月連続マイナス
身のまわり品	-5.6	-0.8	2か月連続マイナス
化粧品	6.2	0.5	18か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-7.7	-0.5	7か月連続マイナス*
その他雑貨	-4.8	-0.2	2か月連続マイナス*
雑貨	-1.2	-0.2	2か月連続マイナス
家具	-18.8	-0.3	7か月連続マイナス
家電	25.4	0.1	3か月連続プラス
その他家庭用品	-3.2	-0.1	6か月連続マイナス
家庭用品	-6.3	-0.3	9か月連続マイナス
生鮮食品	-4.0	-0.2	30か月連続マイナス*
菓子	-4.4	-0.3	2か月連続マイナス*
惣菜	-2.5	-0.1	2か月連続マイナス*
その他食料品	0.7	0.0	7か月ぶりプラス*
食料品	-2.4	-0.6	7か月連続マイナス
食堂喫茶	-5.7	-0.2	11か月連続マイナス
サービス	0.9	0.0	3か月連続プラス
その他	-1.9	0.0	3か月ぶりマイナス
商品券	-7.4	-0.2	67か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>